

2010年上海国際博覧会日本館出展基本計画 要旨

2008年2月
上海国際博覧会日本館計画委員会

上海国際博覧会日本出展の基本コンセプト (2007年7月策定)

出展テーマ
こころの“和”・わざの“和”
出展の目標
ありのままの日本を知ってもらい、日本をもっと好きになってもらう
持続可能な21世紀型の都市生活の姿を提示する
官民一体での取り組み

上海国際博覧会日本館出展基本計画

基本コンセプトを具現化
上海博への公式参加に向けた準備にあたっての骨格となるもの

(章立て)
・第1章 出展の考え方
・第2章 各区分の基本計画
(建築、展示、行催事、広報、サイバーパビリオン、運営、環境)
・第3章 全体工程計画
・第4章 資金計画

2010年5月の開幕に向け、本計画に基づき建築、展示、行催事、運営等各部門の諸準備を進める

建築

基本的な考え方

- 上海博全体のテーマと日本館のテーマの両方に相応しいメッセージ性を有する建築（持続可能性、環境配慮）
- 記憶に残る建築、「和」を意識した技術や表現
- 使いやすさ、ユニバーサルデザイン、安全快適な空間づくり

空間構成上の特徴

- 展示観覧体験は、1階から上昇トラベレーターで10m内外のレベル（3階）まで上がり、そこから展示空間内を降りながら観覧体験していく構成。また、このレベルからパビリオン内が一望俯瞰できる場を創造。
- 建物すべてを被覆する大屋根（スーパールーフ）を設置し、下部の複合化した展示空間を傘下に収めるといった立体構成を創造。スーパールーフ自体に、顕在化しデザインと融合した環境配慮技術を採用。

基本諸元

- 敷地面積 6,000m²
- 建築面積 4,000m²~4,500m²
- 延床面積 7,000m²~7,500m²
展示空間：4,250m²~4,500m²
運営・管理空間：2,750m²~3,000m²
- 高さ 約20m
- 階数 2~3階（基本的に地階は設けない）
- 観客人員処理能力 約60人/分（3,600人/時）
- 屋外イベント空間を設けて、基本的に屋根で被覆

日本館内の展示全体イメージ

展示空間の構造

(1) 空間形態 ～ “俯瞰” と “軸線” ～

- ・ 来館者は、最初に、これから日本館全体を通して語られていく物語の存在を実感（俯瞰）
- ・ 日本館全体を貫く象徴的な“軸線”を配置 → 「俯瞰」の効果を最大化

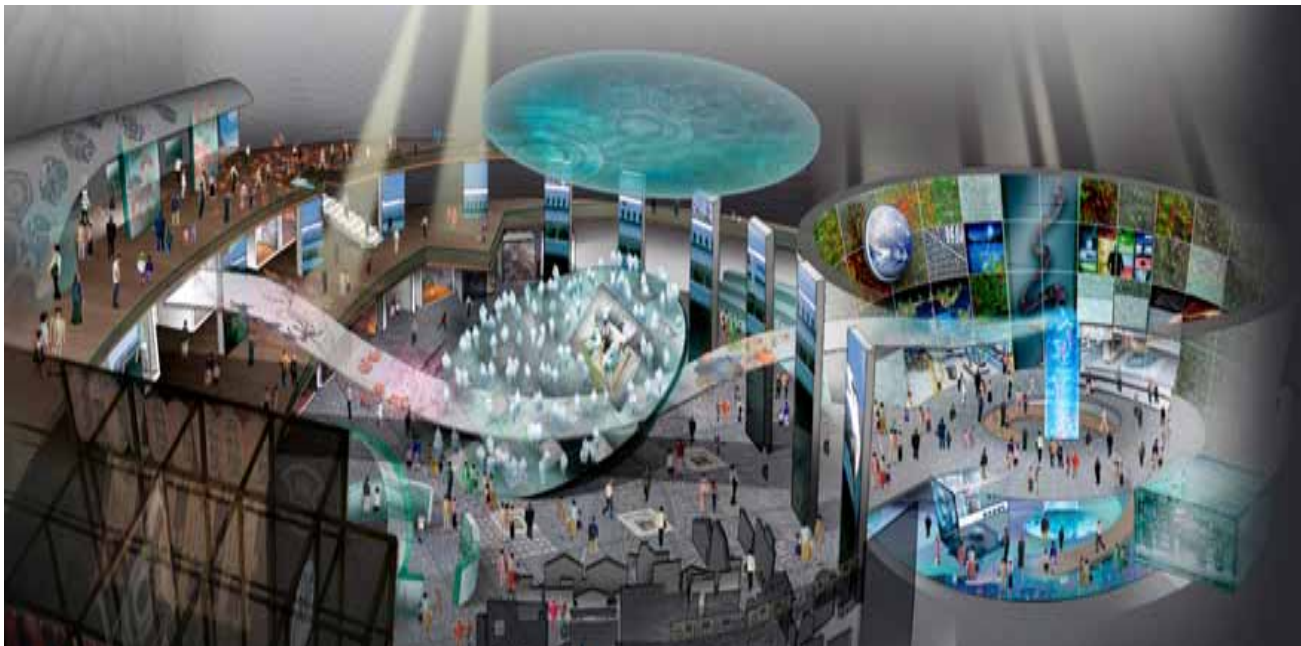
(2) 空間構成 ～ “花火” と “昆虫採集” ～

- ・ 一瞥しただけでメッセージが実感できる“花火型”展示と自らの意志で情報を探索する“昆虫採集型”展示の組合せ

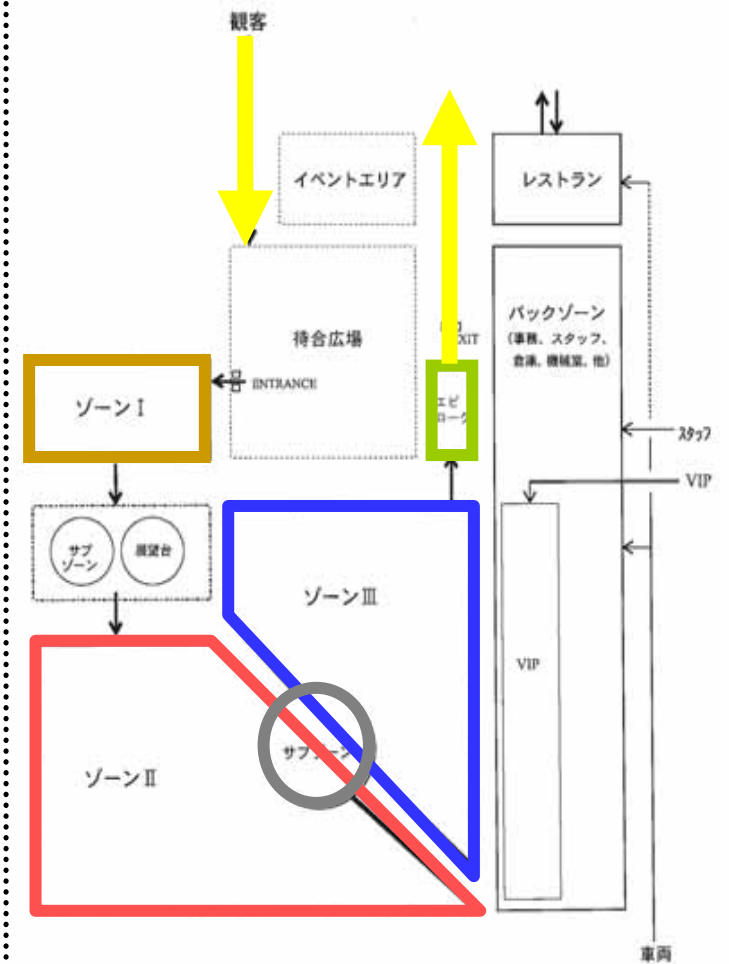
(3) 空間環境 ～ “探索” と “体感” ～

- ・ 観客は館内を巡り歩く中で情報を“探索”・“発見”し、メッセージを空間から“体感”

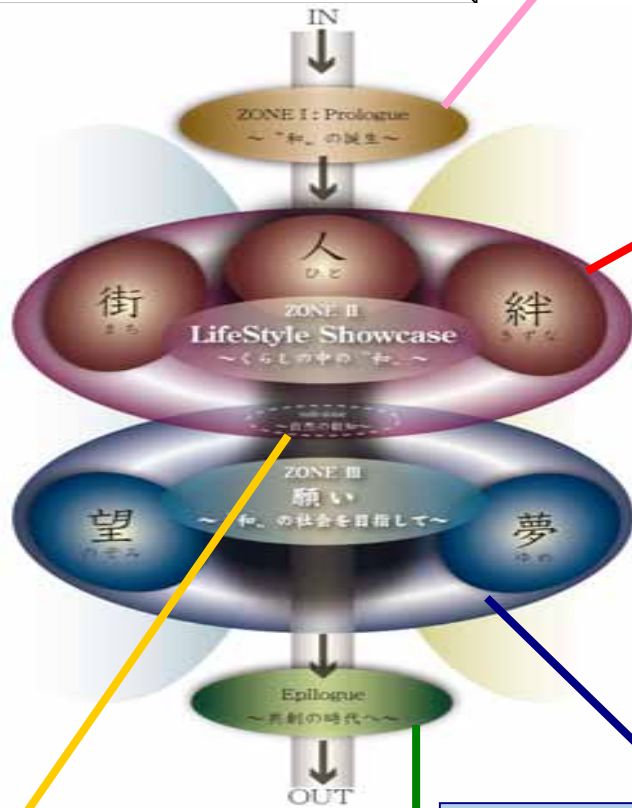
日本館内のイメージ



日本館の構成案



展示構成の枠組み



【ゾーン】プロローグ ~“和”の誕生~

<ゾーンの目的>

館内展示への興味喚起と期待感醸成(参道的空間)

<展示展開例>

日本と中国の文化的つながりを想起させる文物のイメージで空間を満たすことで「和」のイメージを感覚的に伝えると共に、日本の文化や都市は中国からも影響を受けており、日本は独自の文化や都市の体系を樹立しながらも、他文化からの影響を大切に今に残していることを伝える。

【ゾーン】ライフスタイル・ショーケース ~くらしの中の“和”~

<ゾーンの目的>

ありのままの日本人の多様なライフスタイルに触れ、来館者に日本への理解と共感を喚起

<展示展開例>

日本館を縦断する一本の軸線(イメージの河(仮称))が中央に走り、日本の美しい自然風土や伝統的な風物等が絵巻物のように流れていく。

「人」「絆」「街」という3つのテーマ空間を配置

【人(ひと)】(中核展示)

衣食住など身近なテーマを題材に、日本人の多様な日常生活を追体験していく。

【絆(きずな)】

日本人らしい人と人との繋がりから生み出される事象を題材に、その背景にある日本人の気質(思いやり、礼儀正しさ)や暮らしの知恵、日本人の感性を伝える。

【街(まち)】

街の景観や環境技術など目に見えるものはもとより、物流や情報のネットワークなど目に見えないシステムやインフラを紹介し、より良い暮らしの舞台としての進化を遂げてきた日本の街を概観する。

【サブゾーン】 自然の叡智

<ゾーンの目的>

「自然の叡智」をテーマに開催した愛・地球博の理念と成果を継承しながら、持続可能な社会を目指して種々の取り組みを進める日本の姿を伝える。

【エピローグ】 ~共創の時代へ~

日本館展示の余韻に浸りながら、日中の相互理解の進展を願う象徴として、共創の成果を象徴的に提示

【ゾーン】 願い ~“和”の社会を目指して~

<ゾーンの目的>

持続可能な共生社会、豊かで潤いのある都市生活の実現を目指して真摯に取り組む日本人の営みを、技術・文化双方の視点から魅力的に伝えるとともに、その原動力ともいべき日本人の未来に向けた願いを語る。

<展示展開例>

中核展示「望み」を中心に、技術の領域をテーマに、将来のより良い生活の実現に向けた日本人の志を語る。また、続く「夢」では、より感性に近い領域での日本人の創造性が発露している。

【望(のぞみ)】フューチャー・ラボ(中核展示)

日本が有する先端技術が我々の暮らしをどう変えようとしているのかを、安心・安全、エネルギー問題への対応も含めた環境との共生、個人のニーズに対応した快適さなどのテーマに応じたストーリーを通じて、演劇的手法も活用しつつ、楽しく表現する。

【夢(ゆめ)】フューチャー・ギャラリー

デザインやファッションなど、より感性に近い領域で、未来を拓く日本の高い創造力を魅力的に提示する。

行催事

基本的な考え方

- 出展理念・テーマの理解を促進する祝祭
- "オールジャパン"による多様な参加の仕組み
日本館の自主企画による行催事の他、自治体等多様な主体に参加機会を提供し、伝統文化・芸能から現代のポップカルチャーまで幅広いコンテンツを紹介
- 展示・サイバーパビリオンとの整合・連携

行催事の枠組み

- 公式行催事
起工式、開館式、ジャパンデー、ジャパンウィークを開催
- 特別企画催事（テーマプロジェクト）
日本と中国の交流を促進し、出展理念やテーマを訴求する催事を参加団体や協賛を募り協働型で開催
- 参加者企画催事
出展理念・テーマの枠組みの中で、自治体、団体、NPO、市民グループ等が独自に企画・制作・運営する催事を行うためのイベントスペースを提供

広報

○ 基礎的活動

パンフレットやPR映像等の製作・配布等

○ 多様な主体と連携した広報

協賛企業や自治体、観光業界、上海世博局、中国関連イベント等との密接な連携による効果的な広報

サイバーパビリオン

○ 実際のパビリオンとサイバーパビリオンとの連携

サイバー上でのアンケート結果やナビゲーション履歴などを実際のパビリオンの演出にも反映。

○ 日本出展のテーマの理解増進

実際のパビリオンで関心を持ったテーマに対して、更に理解を深めるような情報をサイバー上で提供。

運営

○ 「おもてなしの心」で来館者を迎える

待ち時間対策等きめ細やかな来場者サービスを実施

○ 日本館の理念やテーマの具現化

- ・ 最善のバリアフリーサービス、安全管理
- ・ 本物を感じられるレストランの設置

環境

地球規模の課題に対して共に議論し考える舞台としての21世紀の万国博覧会の性格、上海国際博覧会全体のテーマ、また愛・地球博の理念継承・発展といった点を踏まえ、建築・展示など各事業区分において環境負荷の低減を図ると共に、日本館でのこうした取り組みをPRする。

- 建築: リサイクル材の活用、新エネによる館内への電力供給、自然を利用した換気システム 最小限の地盤改変 等
- 展示: 展示コンテンツにおける環境訴求、日本館での環境配慮の数値化・可視化、展示物制作時の環境負荷低減 等
- 運営: ITを活用した運営の省力化、環境に配慮したレストラン(バイオマス食器の使用) 等
- 行催事: 愛・地球博の理念を継承したイベントの開催、3Rを意識したイベント用具の設営・撤去 等

今後の主なスケジュール

	2008年度												2009年度												2010年度					
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6		
建築	設計												建築工事																	
展示	調査・設計												展示物やコンテンツの制作												展示物搬入付け・調整					
行催事	参加者企画催事の募集・参加者調整												日本館自主催事の具体化																	
広報	実施計画												総合的広報活動展開・実施																	
サイバー	コンテンツの設計・制作												サイバーパビリオン立ち上げ																	
運営	基本計画の具体化												アテンダント募集・教育												レストラン運営事業者募集・開設準備					

資金計画

○ 総事業規模についての基本的考え方

- ◇ 建築、展示、運営などの分野ごとに必要な予算を積み上げ
- ◇ 企画・設計段階からパビリオンを撤去するまでのトータル
- ◇ 為替変動やインフレへの対応等の為の予備費も一定程度含む

○ 収入についての基本的考え方

- ◇ 日本の出展に当たっての共通の土台となる部分（パビリオンの建設費や事務局運営費など）に相当する金額については、政府予算での確保に努める。
- ◇ さらに、企業等からの資金や技術面の協力を得ながら、展示や行催事の内容充実を図る。